



伊吹山では、2023年の7月に南側斜面で大きな土砂崩れが起こりましたが、その後の市の取り組みとして植生復元プロジェクトがスタートし、様々な取り組みを行っていた中で、少しずつその成果が出てきていると感じています。

私たちユウスゲと貴重植物を守り育てる会は、主に3合目の植生保全活動として獣害防止柵の設置などを行っているのですが、以前は柵に化繊ネットを使用していたため、ニホンジカにネットをかじって破られてしまい、保護柵の中

植生復元の取り組みの成果を 少しずつ実感している



霊峰伊吹山の会・
ユウスゲと貴重植物を
守り育てる会 会長
たか はし たき じ ろう
高橋 滝治郎さん

のユウスゲが広範囲に食べられてしまふということがありました。

しかし、多くの方にこの取り組みに共感いただき資材の支援などをいただく機会があり、化繊ネットから金属柵に変更できたおかげで、この1年はそういった被害もなく、たくさんの方が咲くようになってきたと感じています。

また、保護柵設置のほかに、繁殖力が強く他の植物の生育に影響の大きいススキなどを刈り取っています。

私たちは春から秋にかけて、毎月、3合目で一般の方に参加いただける植物観察会を実施し、特に7月のユウスゲが咲く時期を中心に、県内外の多くの方にお願いいたしますが、ぜひ地元米原市の方もたくさん参加いただき、保護柵の中で季節ごとに移り変わる様々なお花を見て、ふるさとの山、伊吹山の魅力と課題も知ってほしいです。

また、霊峰伊吹山の会の活動として、山頂付近での保護柵設置に協力しているのですが、こちらにも昨年金属柵を設置して以降、3合目同様シカの侵入を防ぎ、固有種のルリトラノオがあちこちで開花するなど、その効果が少しずつ出てきていると



3合目に咲くユウスゲの花

感じています。

しかし、まだまだこれからも、広く緑が失われた伊吹山南面の植生を再生するために、計画的な取り組みを継続して実施することが不可欠だと感じています。

**未来を担う子どもたちにも
伊吹山の恵みを感じてもらいたい**

今年の新しい活動として、伊吹山に自生するイブキジャコウソウという植物を増やし、植生再生を進めるため、伊吹小学校の子どもたちに苗を育ててもらい、大きくなった苗を伊吹山に移植するという取り組みが始まりました。

イブキジャコウソウは強い清涼感のある香りが特徴なのですが、ニホンジカはその香りを嫌うため、食害にあいにくいということが分かってきました。この植物の苗を子ども達に育ててもらい、伊吹山を守る取り組みを実際に体験してもらうことで、何かほかにも自分たちができることを考えてみてもらえるといいなと思います。

私は伊吹山の麓で生まれて、伊吹山の恵みを受けて育ってきました。これからの未来を担う子どもたちにも、伊吹山からの恵みを受けとってもらい、伊吹山を好きになってもいい、そしてこの先もずっと大切に守ってほしいと願っています。

- ①イブキジャコウソウの苗
- ②伊吹小学校でイブキジャコウソウの苗ポットづくりの説明をする高橋さん
- ③苗ポットづくりは5月に開催された植生復元イベントでも実施され、市民をはじめ多くの方がこの取り組みに参加している



特集2

伊吹山再生に向けた取り組みを進めています



昨年伊吹地先で発生した土砂災害については、地球温暖化などの影響による集中豪雨の増加とともに、ニホンジカの急増によって山の植物を食べ尽くし、裸地が広がったことが要因の一つと考えられています。こうした状況を改善し、かつての美しい伊吹山を取り戻すため、市では地元団体や企業などと連携し、植生回復や土砂流出防止対策などの取り組みを進めています。

図市 まち保全課 ☎53-5175 図53-5179



▲伊吹山テレビでも紹介しています

【ニホンジカの捕獲強化】

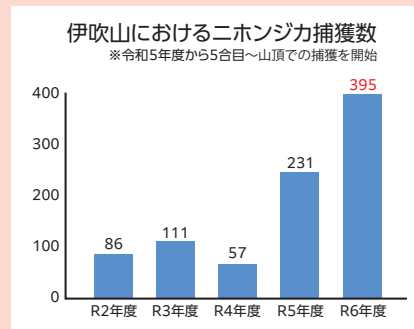
伊吹山麓から山頂にかけて、ニホンジカを捕獲するための大型囲いわななどを設置しているほか、銃猟を実施しています。令和6年度には目標捕獲数300頭を大きく上回り、南側斜面における生息数も減少に転じているものと考えられますが、山頂域では生息密度が高く、引き続き捕獲強化を進めています。



山頂に設置した大型囲いわな



5合目に設置したドロップネット



【南側斜面の崩壊防止と植生回復】

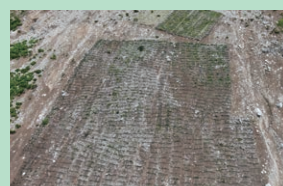
土砂の流出を抑え植生回復を促す土のう筋工や、斜面を覆う事で侵食を防ぎ地面を安定させる伏工、ニホンジカの食害を防ぐアーチ式獣害対策ネットなどにより植物を増やす取り組みを行っています。また、山腹を流れる水路が崩れないよう、カゴ枠などを設置する取り組みを行っています。



土のう筋工施工時
(2023年10月)



1年9カ月が経過し、施工部分に植物が生い茂ってきています。
(2025年7月)



アーチ式獣害対策ネット施工後
8カ月(2025年5月)



施工後10カ月、ネット内の植生が回復してきている様子が分かります。
(2025年7月)

【山頂・3合目における植生保全】

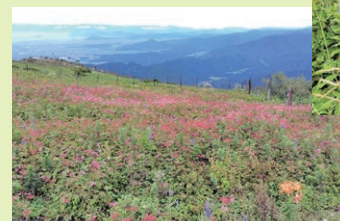
伊吹山の山頂と3合目付近では、地元団体や自然保護団体が貴重な植物を守るために活動されています。山頂では、2024年9月に西側全体を囲む金属柵が完成し、お花畑の回復が進んでいます。



山頂での柵設置作業



保護団体による3合目での柵設置作業



地域住民や保護団体の熱心な活動により復元している山頂西側のお花畑



金属柵設置の効果により植生が回復してきている山頂のルリトラノオ群落
(2025年8月)